

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策〔昨年度数値〕
1 学習指導 (1) 進学指導推進校として、質の高い授業を創造・実践する。 ① 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、活用する学習活動に取り組む。また、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ② 生徒が思考・判断・表現する授業場面を設定することにより、生徒の主体的に学習する態度を醸成する。 ③ 英語教育推進校として、CAN-DO リストを活用した指導と評価に取り組むとともに、外部試験による生徒の4技能別英語力を把握し、指導方法を改善する。 ④ 相互授業参観や指名制による授業研究、外部の研究会への参加などによって、授業力向上に努める。また、その成果を各教科で共有する。 (2) 新学習指導要領・大学入学共通テストに対応するために、「教科マネジメント」を確立する。 ① 3年間を見通した指導計画を作成し、指導と評価の一体化を目指す。 ② 定期考査・外部模試等の分析、生徒による授業アンケートを活用し、授業改善に取り組む。 ③ 学力スタンダードに具体的な学習目標を明示し、校内で組織的・効果的な指導を行う。 ④ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を進める。 ⑤ 年間行事計画等を見直し、授業時間の確保に努める。	(1) 授業改善に組織的に取り組み、生徒の学力向上を図る。 ① 生徒による授業アンケートを活用する他、相互授業参観や校内研修を通して、授業改善に取り組む、組織的に授業満足度を高めていく。 ② 思考力及び記述力・論述力を測る定期考査の作成に各教科で取り組むとともに、定期考査問題の共通化を推進する。 ③ 指導と評価の一体化に取り組む。 (2) 新学習指導要領に対応した教育課程実施に向けた準備を行う。 ① 教育活動の指針(スクール・ポリシー)を策定し、それに基づいて年間指導計画を作成する。 ② 多面的・多角的な評価について検討し、観点別学習評価に向けたルーブリックを作成する。 (3) 適時適切な課題(宿題)を設定し、学習習慣の定着を図るとともに、自学自習の取組を支援する。 ① 課題(宿題)の履行状態と目標の達成状況を把握し、課題の精選と縮減を図る。また、必達、上位、挑戦の段階に分けるなど、個々の生徒の状況に応じた課題の選択的付与を行う。 ② 教科を横断した課題の見える化に取り組む。 【数値目標】 ア 生徒による授業アンケートの各項目で、肯定割合 80%を達成する。 「学習内容のわかりやすさ、準備・工夫」[87.9%] 「思考・判断・表現力の伸長」[87.4%] 「興味・関心、意欲の喚起」[84.1%] イ 学校評価アンケート 「能力を伸ばす教育の実践」80%〔生徒 73.0%、保護者 56.2%《18.5%》〕、 「満足できる授業が多い」80%〔生徒 75.8%、保護者 59.1%《17.8%》〕を目指す。 ウ 全科目において大学入学共通テスト全国平均 +15.0p〔+12.2p〕(100点満点換算)、得点率 80%以上の割合 50%〔43.8%〕を目指す。 エ GTEC の各学年同時期の最高スコア〔1年 605.7点, 2年 656.9点〕を超える。
2 進路指導 (1) 3年間を通して一貫した組織的な進路指導体制を構築する。 ① 生徒の主体的な学習を促すため、キャリア教育に基づく学習指導、進学指導を行う。 ② 生徒・保護者に対して意図的・計画的な情報提供・ガイダンス等を積極的に行うとともに、講習を充実させる。 ③ 3学期を、次年度の○学年0学期と位置付け、学年・進路部・各教科が連携して組織的な取組をスタートさせる。 ④ 成績推移等の情報を共有し、担任・教科担当・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励まし、第一志望を貫くよう学校全体で支援する。	(1) 生徒の自主学習時間を確保するとともに、第一志望実現を支援する。 ① 部活動・行事準備期間の校内ルールを遵守するとともに、自習室・自習スペースを確保する。 ② 外部映像教材の提供に関する運営体制の改善を図る。 ③ 「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育を組織的に取り組み、充実させる。 (2) 個別ケース会議を計画的・機能的に実施し、きめ細やかな指導を行う。 ① 外部模擬試験等の事後指導において、学年や時期に応じた振り返りを行い、次の模試に向けた学習計画に反映させる。また、安易に受験科目

(3) 自己評価〔昨年度数値〕、《内数：わからない》	(4) 次年度以降の課題と対応策
1 学習指導 【B】 生徒による授業アンケートを年間2回、すべての生徒を対象に全科目で実施した。授業アンケートでは一定の肯定的評価を得た。自由意見の回答を担当者へ個別に手渡し、各自の授業改善につなげた。 「満足できる授業が多い」は、生徒は 75.9%と比較的高いが、保護者は 61.9%《18.0%》とやや高い程度に止まった。「思考力・判断力・表現力を育てる授業」をテーマとした授業を参観し、その後、校内研修(グループディスカッション)を行うことで、教員全体の授業改善に対する意識を高めた。 知識・技能だけでなく、思考力及び記述力・論述力を測る定期考査の作成に各教科で取り組むとともに、定期考査問題の共通化を推進している。5教科の定期考査では、問題の全てまたは一部を共通問題で実施している。 「評価できる学習指導」では、生徒・保護者・来校者の三者とともが「JET による英語指導」「講習・補習」を評価の上位に挙げている。 【数値実績】 ア 生徒による授業アンケートの肯定的評価の割合 「課題や目標をもち、主体的に取り組んだか」86.2%[87.9%] 「学習内容のわかりやすさ、準備・工夫」87.5%[87.9%] 「思考・判断・表現力の伸長」86.6%[87.4%] 「興味・関心、意欲の喚起」82.8%[84.1%] イ 学校評価の肯定的評価の割合 「能力を伸ばす教育の実践」 生徒 78.4%[73.0%]、保護者 62.7%《16.8%》[56.2%《18.5%》]、教員 97.5%[85.4%] 「満足できる授業が多い」 生徒 75.9%[75.8%]、保護者 61.9%《18.0%》[59.1%《17.8%》]、教員 95.0%[95.1%] 「生徒が評価する学習指導の項目(複数回答)」 (1)JET による指導 37.2%[(1)49.6%]、(2)2年選択 29.1%[(2)28.3%]、(3)3年選択 26.6%[(4)24.9%]の順 ウ 大学入学共通テスト全国平均比較+10.7p〔+12.2p〕、得点率 80%以上割合 29.0%〔43.8%〕 エ GTEC の RLW の各学年のスコア〔1年 640.6点, 2年 671.9点〕〔1年 605.7点, 2年 656.9点〕 ※H31 より Writing が 170 点から 320 点満点に変更	〔課題〕 (1) 「満足できる授業が多い」の肯定割合を一層高め、組織的な授業改善を行う。 (2) 観点別学習状況の評価を適正に行うなど、新しい学習指導要領を確実に実施する。 (3) 課題の精選と縮減、見える化を一層推進する。 (4) 新型コロナウイルスの感染症対策と生徒の学びを止めない「学びの保障」を両立させる。 〔対応策〕 (1) 生徒による授業アンケートを活用する他、相互授業参観や校内研修を通して、組織的に授業改善に取り組み、学校全体の授業満足度を高めていく。また、指名制の授業見学や模範授業等への参加を促進し、その成果を各教科で共有させる。 (2) 新学習指導要領の確実な実施に向けて、指導と評価の一体化を目指すとともに、カリキュラム・マネジメントを推進する。また、定期考査の共通化を進める。さらに、教科主任会を活用し、教科横断的な取組を推進する。 (3) 課題(宿題)の成果と課題を検証し、精選された必須の課題や個々の生徒の状況に応じた選択的課題など、個別最適化された課題の付与にも取り組む。 (4) 一人一台端末などP C を効果的に活用する。オンライン授業等を有効に活用し、パイブリッド型の授業にも取り組んでいく。
2 進路指導 【B】 模試分析資料作成及び校内全体での情報共有、組織的な進路指導体制による指導を行っている。 第一志望(11月)における国公立大の割合は、1年 41.7%《国公立未定 39.6%》[42.9%《34.2%》] (1年は4月第1回スタディーサポートより集約)、2年 57.2%[55.0%]、3年 59.5%[38.3%]であった。 「評価できる進路指導」では、生徒・保護者ともに「進路の手引き」「各種ガイダンス・進路だより」を評価の上位に挙げている。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合 「第一志望実現を支援する進路指導」 生徒 89.7%[88.5%]、保護者 71.2%《20.0%》[63.9%《19.4%》]、教員 100.0%[90.2%] 「進路情報の提供」	〔課題〕 (1) 自主学習を圧迫する一因となっているスマホ利用を主体的に制御させ、自主学習時間を確保する。 (2) 模試分析会や個別ケース会議を充実させ、その機能を高めていく。 (3) カリキュラム・マネジメントを確立し、教育課程の編成、実施、評価、改善を計画的かつ組織的に進め、教育の質を高めていく。 (4) 「総合的な探究の時間」を組織的に運営し、キャリア教育を充実させる。 〔対応策〕 (1) 保護者会等を通じて「SNS 家庭ルー

(2) 国公立・難関私立大学受験の取組を強化する。 ① 生徒面談や三者面談等を通じて、一人一人の適性・能力に応じた指導を行う。 ② 都の「志」育成事業である首都大学や京都大学などのフォーラム等に積極的に参加させ、それを機会に高等教育に対する興味・関心を高める。 (3) 「高大連携による教員養成プログラム」を東京学芸大学との連携により推進する。 ① 1・2年生向けの講演や希望者対象のワークショップ、キャンパス訪問等を計画・実施する。 ② チーム・エデュケーションの設立に向けた準備を行う。	数を減らさせない支援・指導を行う。 ② 大学入学共通テストの結果をもとに、志望校検討会を実施し、個別指導につなげる。 (3) 教科会の機能を強化し、組織的な教科指導の確立と学校全体の学習指導力の向上を図る。 ① 各教科で模試分析資料を作成し、教科会で検討し、教科指導・個別指導へ反映させる。また、適宜ケース会議を設定し、情報を共有する。 ② 学力層に応じた組織的な補習・講習を計画的に実施する。 【数値目標】 ア 学校評価アンケート 「第一志望実現の進路指導」80%〔生徒88.5%、保護者63.9%《19.4%》〕、 「進路情報の提供」80%〔生徒90.4%、保護者71.3%〕を達成する。 イ 国公立大学現役合格者40名〔39名〕を目指す。 ウ 大学入学共通テスト5教科7科目受験40%〔26.5%〕を目指す。 エ 長期休業期間中に80講座以上〔40講座※〕の補習・講習を実施する。（※コロナ禍による） オ 学年+1時間の自主学習時間を確保する指導を行い、40%〔34.4%〕を目指す。	生徒90.3%〔90.4%〕、保護者79.0%〔71.3%〕、教員100.0%〔90.2%〕。 「評価できる進路指導の項目（複数回答）」 (1)進路の手引き39.6%〔(1)45.1%〕、(2)各種ガイダンス・進路だより38.5%〔(2)34.1%〕、(3)面談指導32.8%〔(3)31.1%〕の順 イ 国公立大学現役合格者51名〔39名〕（含海上保安大、防衛大、国立看護大、水産大） 国公立大学出願者数90名〔87名〕 ウ 大学入学共通テスト出願率98.2%〔98.7%〕 5教科7科目受験38.2%(26.7%) エ 長期休業期間中に延べ166日〔※93講座〕の補習・講習を実施（※昨年度は講座数） オ 自主学習時間（学年+1時間の確保）36.1%〔34.4%〕 1年平均1h34m(1h～74.4%、2h～26.5%)、 2年平均1h52m(2h～38.7%、3h～12.0%)、 3年平均4h37m(3h～86.4%、4h～69.9%)	ル」の策定を推奨する。また、部活動・行事準備期間の校内ルールを遵守し、学習と部活動との両立を図る。 (2) 外部模試等を分析し、それに適応した学習計画を立案するとともに、適切な振り返りに取り組ませる。また、安易に受験科目数を減らさせない支援・指導を行う。大学入学共通テスト後に、志望校検討会を実施し、個別指導につなげる。 (3) 教科主任会を計画的に実施し、組織的なPDCAサイクルを確立する。 (4) 「総合的な探究の時間」の運営体制を整備する。また、探究の成果を総合型選抜等の受験に活用できるよう、生徒を支援する。
3 生活指導 (1) 規律ある学校生活の中で、自立の精神を養う。 ① 挨拶や身だしなみ、チャイム始業等の授業規律等の指導を通して、本校生徒として相応しい態度の育成及び自己管理能力の涵養を図る。 ② 地域や関係諸機関と良好な関係を構築し、生徒の健全育成や、登下校のマナー等の課題解決を図る。 ③ 学校いじめ対策委員会を中心に、学年、分掌等の連携のもと、いじめのない学校づくりを推進する。また、学校の教育活動のあらゆる場面で、体罰や不適切な指導の根絶に努める。 ④ 防災教育推進委員会と連携し、年4回の避難訓練、防災訓練を計画・実施する。	(1) 全教職員が一体的に生活指導に取り組む。 ① 「SNS学校ルール」に基づき指導を行うとともに、講演会を企画・実施する。「SNS家庭ルール」作成に向けた保護者への啓発を行う。 ② 年間3回以上の生徒面談を実施し、生徒理解を深める。また、計画的に保護者との面談を設定し、確実に周知し、実施する。 ③ 基本的生活習慣を確立させるとともに、組織的に遅刻指導に取り組む。 ④ 面接指導等を通じて、スマホ利用時間や部活動時間を自律的に制御する能力を育成する。 ⑤ いじめのアンケートを年3回（6月、10月、1月）実施し、早期発見に努める。また、取組内容や成果など、保護者の理解を深めるように情報発信等周知に努める。 【数値目標】 ア 遅刻指導を徹底し、遅刻者数を減らす。（各クラス1日平均0.5人以内〔0.36人〕） イ 学校評価アンケート 「生徒と向き合う生活指導」80%〔86.9%〕、 「いじめ防止」80%〔83.5%〕、 「体罰・暴言のない指導」80%〔91.4%〕、 「安全指導・防災教育」80%〔85.4%〕を達成する。	3 生活指導 【C】 「体罰・暴言のない指導」の評価は、生徒は92.6%と非常に高く、保護者も77.0%と比較的高い。 「日常生活のマナーや社会のルールを守っている」の評価は、生徒(自己評価)97.3%、保護者97.1%、来校者87.0%、教員100.0%といずれも高い。 いじめアンケートは各学年3回実施した。 継続的な指導の結果、遅刻者数（各クラス1日平均）0.44人〔0.36〕と微増、3年が増加した。 生徒面談指導を学期に1回以上実施した。保護者との二者・三者面談の充実が課題である。 【数値実績】 ア 遅刻者数（各クラス1日平均） 1年0.13人、2年0.37人、3年0.83人、全校0.44人〔1年0.11人、2年0.33人、3年0.64人、全校0.36人〕 イ 学校評価の肯定的評価の割合 「生徒と向き合う適切な生活指導」 生徒89.7%〔86.9%〕、保護者74.4%《18.9%》〔71.7%《17.3%》〕。教員87.5%〔85.4%〕 「いじめ防止に対する組織的な取組」 生徒85.7%〔83.5%〕、保護者49.8%《42.3%》〔48.4%《41.9%》〕、教員92.5%〔95.2%〕 「体罰・暴言のない指導」 生徒92.6%〔91.4%〕、保護者77.0%《18.4%》〔74.4%《18.0%》〕、教員90.0%〔92.7%〕 「安全指導・防災教育の適切実施」 生徒89.3%〔92.6%〕、保護者64.8%《28.1%》〔63.8%《27.4%》〕、教員82.5%〔80.5%〕	〔課題〕 (1) SNSに関して教科「情報」の指導は行ったが、感染症拡大のため、外部講演会が実施できなかった。 (2) 3年生2学期における遅刻者数の増加を抑える。 (3) 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に努める。また、体罰や暴言等のない指導を推進する (4) 保護者面談・三者面談を希望する保護者の要望を丁寧に聞き取り、対応する。 〔対応策〕 (1) 入学後直ぐに、SNSに関する指導が実施できるよう、講演会を企画する。 (2) 選択授業を含め、日々の出欠状況を的確に把握し、生活規律の徹底を図る。 (3) 保護者会等を通じて、策定した「学校いじめ防止対策」の周知に努める。校内研修を適切に実施し、体罰や暴言など不適切な指導のない学校づくりに学校全体で取り組む。 (4) 計画的に保護者との面談を設定し、確実に周知し、実施する。
4 健康づくり等 (1) 健全な心身を育む取組を行う。 ① 生徒の心身の健康づくりを推進するために、学校保健委員会の充実やスクールカウンセラーとの連携強化に努める。また、特別支援教育を推進する。	(1) 教育相談機能の充実を図る。 ① スクールカウンセラーによる1年生全員面接を1学期中に実施する。また、SC情報共有会（ケース会議）を開催するなど支援が必要な生徒情報を共有する。	4 健康づくり等 【B】 新型コロナウイルス対応の関係で、全員面接の終了は8月となった。専門医派遣の他、SC情報共有会（ケース会議7回実施）を通して、不登校や不適応生徒に対する成果を挙げた。また、生徒アンケートの基づくSC面接を実施した。不登校傾向のある生徒(年間欠席50日間以上)はいない(1年0名、2年0名、3年0名)。	〔課題〕 (1) 全員面接の終了が8月末となった。生徒情報を適時適切に把握する。 (2) 本校の施設の中で、清掃が行き届いていない場所として、更衣室を生徒と教員の過半数が、廊下・階段を教員の過半数が挙げている。

② 「高校生の意識」調査を実施し、教育相談等に活用する。 ③ 体力テストで自己の課題を把握させ、一人一人が自分の目標をもって取り組む指導を行う。 (2) 校内美化・保健衛生に取り組む。 ① 学習環境整備のため、全校あげて美化活動に取り組む。 ② アレルギーを有する生徒情報を共有するとともに、エピペンの使用方法に関する研修を実施する。	② 専門医派遣事業による精神科医による学校相談活動を継続し、不適応生徒等に対応する。 (2) 美化・清掃活動を徹底する。 ① 清掃分担等を見直し、更衣室やトイレなどの校内美化・整備に取り組む。 【数値目標】 ア 学校評価アンケート 「教育相談の環境整備」80%〔81.4%〕、「衛生・清掃状況」80%〔86.4%〕を達成する。 イ 体力合計点の各学年の校内平均値を、全国平均値以上へと向上させる取組を行う〔全国比男子－p、女子－p コロナ禍で未実施〕。
5 特別活動・部活動 (1) 学習との両立を推進し、特別活動・部活動を充実させ、生徒の帰属意識を高める。 ① 合唱コンクール、体育大会、文化祭、修学旅行等の学校行事を通して、成就感や達成感を高める。 ② 「部活動の在り方に関する方針」に則り、部活動に係る活動方針を策定し、各部活動の指導方針・指導計画を作成し、適切な指導、運営を行う。 ③ 地域、関係機関との連携を密にし、地域行事、ボランティア活動、奉仕活動へ参加させる。 ④ オリンピック・パラリンピックに関する教育をすべての教科に位置付け、推進する。 (2) 「理数研究校」として、理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を拡げ、探究活動に取り組む。 ① 「科学の祭典」に参加し、その他各種科学コンテストへの出場を目指す。 ② 専門機関の講師による講義や実習を実施し、研究及び発表内容の充実を図る。 (3) 「海外学校間交流推進校」として、国際理解教育を推進する。 ① 長期休業期間を利用した相互訪問をはじめ、オンライン交流などを実施する。 ② 異文化を体験するとともに、日本文化を発信し、相互の文化について理解を深め、日本人としての自覚と誇りを涵養する。	(1) 学校の「新しい生活日常」に基づき、学校行事の実施内容や形態を見直す。各学校行事の伝統継承や刷新の取組を支援し、一層の充実を図る。 ① 三大行事をはじめ、コロナ禍においても可能な限り実施できるよう工夫する。 ② 令和3年度に向けて合唱コンクールや体育大会の開催時期を検討する。また、精選を含め学校行事の改善を図る。 ③ 生徒会・委員会の主体的な活動や各行事実行委員会の自主的・自律的な活動を支援する。 (2) 部活動の適正化や活性化に取り組む。 ① 生徒の実態を把握し、魅力ある部活動づくりに取り組み、部活動の加入率を高めていく。 ② 学習と部活動の両立に向けて、活動時間・活動日数などメリハリある活動を促進する。 ③ 外部指導員を活用するなど、部活動の支援と一層の充実を図る。 【数値目標】 ア 学校評価アンケート 「個性豊かな人間性の育成」80%〔76.5%〕、「部活動満足度」80%〔83.9%〕、「学習と部活動の両立」80%〔69.8%〕を目指す。 イ 部活動加入率100%〔94.9%〕を目指す。
6 募集・広報活動 (1) 本校の認知度を高め、第一志望とする生徒を増やし、受検につなげる。 ① Webページや学校便り等による情報発信を強化し、広く都民に本校の教育活動を周知していく。 ② 学校説明会や学校見学会、公開授業などの機会に、学校の特色や魅力を伝えていく。 ③ 学校開放事業や公開講座等により、地域に開かれた学校を目指す。	(1) 学校見学会・説明会の充実と、適時適切な情報発信を行う。 ① Webページを一層充実させ、生徒・保護者及び中学生等に必要な情報を積極的に発信する。また、年間365回以上〔400回〕更新を行う。 ② 広報活動の実施時期に合わせ、説明動画配信・オンライン面接を併用して、一層効果を高める。 【数値目標】 ア 学校評価アンケート

「健康管理指導」の評価は、生徒は91.2%と非常に高く、保護者は86.0%と増加し高くなった。 「清掃が行き届いていない場所」では、「どこも清掃が行き届いている」との回答が、生徒17.9%、保護者62.5%、来校者87.5%であった。一方、生徒・保護者・来校者の三者ともが「更衣室」と「廊下・階段」を上位に挙げている。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合 「教育相談の環境整備」 生徒84.9%〔81.4%〕、保護者65.8%〔19.7%〕〔58.8%〔21.5%〕〕、教員87.5%〔73.2%〕 「衛生・清掃状況」 生徒99.7%〔86.4%〕、保護者83.9%〔86.0%〕、来校者94.8%〔93.6%〕、教員87.5%〔97.5%〕 「清掃が行き届いていない場所(複数回答)」 (1)更衣室57.7%〔(1)50.2%〕、(2)廊下・階段32.9%〔(2)34.3%〕、(3)トイレ13.7%〔(4)12.5%〕の順 イ 体力合計点の全国平均比較 全国比男子-1.5p、女子+2.5p〔昨年度は未実施〕	(3) 体力テストの結果、男子はすべての学年で、全国平均を下回った。 〔対応策〕 (1) 全員面接を1学期中に終了させる。また、生徒情報を共有するための拡大学年会を計画的に実施する。加えて、専門医派遣事業による精神科医による学校相談活動を継続し、不登校や不適応生徒に丁寧に対応する。 (2) 校内美化の取組について、清掃分担の見直しを図るなど、美化活動を徹底する。 (3) 一人一人が自分の目標を設定して取り組むことができるよう指導する。
5 特別活動・部活動 【B】 「学校行事を通じた個性豊かな人間性の育成」の評価は、生徒は87.7%と増加、保護者は78.8%と激増した。昨年度は三大行事がどれも中止となったが、今年度は学年開催等の対応もあったものの、すべて実施することができた。修学旅行は、3年生は校外学習により代替し、2年生は延期の予定。 「部活動満足度」の評価は、目標水準に達したが、「学習と部活動の両立」の評価は、達成できなかった。 「評価できる部活動」では、教員を含む四者が「活動日数」「活動時間」を評価の上位に挙げている。 短期語学留学は中止、姉妹校（オーストラリアのウヌーナ高校）の生徒とのオンライン・セッションを実施した。 東京学芸大学との高大連携事業2年目、1・2年生向け講演、教職大学院生によるワークショップに加え、2年生のチーム・エデュケーションによる取組を実施した。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合 「学校行事を通じた個性豊かな人間性の育成」 生徒87.7%〔76.5%〕、保護者78.8%〔53.5%〕、教員92.5%〔73.2%〕 「部活動満足度〔充実度〕」 生徒86.4%〔83.9%〕、保護者79.3%〔72.1%〕、教員90.0%〔92.6%〕 「学習と部活動の両立」 生徒65.3%〔69.8%〕、保護者69.5%〔64.2%〕、教員75.0%〔75.6%〕 「学校行事の中で評価できる項目(複数回答)」 (1)桜樹祭71.2%〔(1)50.2%〕、(2)体育大会51.6%〔(5)37.6%〕、(3)合唱コンクール51.4%〔(4)40.2%〕の順 「部活動で評価できる項目(複数回答)」 (1)種類の数39.5%〔(1)36.6%〕、(2)活動日数34.1%〔(2)29.7%〕、(3)活動時間32.8%〔(3)29.5%〕の順 イ 部活動加入率96.5%〔94.9%〕	〔課題〕 (1) 体育大会、文化祭が2年続けて通常の形態で実施できなかった。 (2) 東京学芸大学との連携事業を継続・発展させる。 (3) 海外学校間交流のプログラムにおける相互訪問が実施できなかった。 (4) 学習と部活動の両立を図る。 〔対応策〕 (1) 各学校行事の実施内容や形態を見直し、いかなる状況でも実施できるよう準備を整える。また、生徒の主体的な企画・運営を支援する。 (2) 東京学芸大学との高大連携事業において、講演やワークショップの在り方について一層改善を図る。事前・事後指導を行い、チーム・エデュケーションの取組を充実させる。 (3) 海外学校間交流事業では、短期語学留学の実施を前提とした準備を進める。オンラインによる交流を定期的の実施する。 (4) 学習と部活動の両立に向けて、活動時間・活動日数などメリハリある活動を促進する。また、部活動の加入率を高めるとともに、外部指導員を活用するなど、充実を図り、活性化を支援する。
6 募集・広報活動 【B】 Webページの更新157回〔400回〕に止まった。 新型コロナウイルス感染症対策のため、集合による開催は人数制限を行った。学校見学会・学校説明会参加者3804人〔1390人〕、授業公開は1日のみ実施できた。また、対面による説明の代替として動画を配信した。個別のオンライン面接や個別相談にも取り組んだ。 学校説明会参加者に来校者アンケート(400家庭)を実施し、学校改善につなげる。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合	〔課題〕 (1) Webページなどによる適時適切な情報発信を行う。 (2) 学校見学会・学校説明会の実施方法や時期・回数を検討し、内容を充実させる。 (3) 今年度は感染防止対策で授業公開が1日しか実施できなかった。 〔対応策〕 (1) 令和4年度都立高校ホームページリニ

	「適切な情報発信」生徒 80%〔85.8%〕 イ 来校者満足度 100%〔97.8%〕	
7 学校経営・組織体制 (1) 組織的な学校運営を推進する。 ① 企画調整会議と各分掌、経営企画室との連携を密にし、ボトムアップ機能を充実させる。 ② 戦略的な予算編成や広報活動への関与等により、経営企画室の学校経営への参画を強化する。 ③ 教科会を充実させるとともに、教科主任会を適宜実施し、教科を横断した学習指導に関する情報交換や連携を促進する。 ④ 年 3 回の服務事故防止研修等により個人情報の管理や体罰等の防止対策など、服務事故の未然防止に努める。 ⑤ OJT を通して、若手教職員の育成に努めるとともに、管理職候補者等の発掘・育成に努める。 (2) 「国際人を育成する学校」を具現化する教育を計画・推進する。 ① 「学校 2020 レガシー」として、国際交流等を企画し、東京 2020 大会以降も継続的に豊かな国際感覚を育成するとともに日本人としての自覚と誇りを醸成する。 (3) ライフ・ワーク・バランスを推進する。 ① 計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。 ② 各種会議の上限時間を設定する等時間短縮に取り組み、教職員の在校時間の縮減を図る。 ③ 年休取得等促進及び超過勤務等縮減に計画的に取り組む。	(1) PDCA（計画、実施、評価、改善）のマネジメントサイクルの機能を高める。 ① 学校評価や授業評価、アンケートなどを活用し、的確に課題を把握するとともに、学校経営の一層の改善を推進する。 ② 学校運営連絡協議会の協議委員による提言や助言を、学校改善に活用していく。 (2) ライフ・ワーク・バランス推進の取組として、教職員の在校時間の縮減を一層推進する。 ① 分掌間、分掌・学年間の連携を強化するとともに、業務の見直しなど、業務の効率化を図る。 ② 学校閉庁日の実施、「休暇取得促進ウィーク・月間」の設定等、年休取得の促進を図る。 ③ 超過勤務縮減に向けた取組として、月 1 回以上の完全消灯日の設定の他、定時退庁の促進を図る。 ④ 看護休暇・短期介護休暇等の利用を推奨する。 【数値目標】 ア 学校運営連絡協議会の協議委員の「学校が良くなった」評価 100.0%〔88.9%〕を目指す。 イ 学校評価アンケート （入学満足度）80%〔85.3%〕、 （学校生活の充実度）80%〔87.8%〕、 （能力を伸ばす教育の実践）80%〔73.0%〕、 （施設設備の整備）80%〔90.1%〕を目指す。	「適切な情報発信」 生徒 85.9%〔85.8%〕、保護者 77.6%《8.2%》〔74.2%《7.5%》〕、来校者 90.5%《6.3%》〔87.5%《10.3%》〕、教員 75.0%〔74.2%〕 イ 来校者アンケートの肯定的評価の割合 「学校説明会・学校見学会に参加して満足している」96.5%〔97.8%〕 「説明会の中で有用あるいは印象的な情報(複数回答)」 (1)生徒の話 88.7%〔(1)60.8%〕、(2)進学状況 60.6%〔(2)47.5%〕、(3)学校行事 48.8%〔(3)44.8%〕、(4)入試情報 33.3%〔(4)45.8%〕
	7 学校経営・組織体制 【B】 「入学満足度」「学校生活の充実度」「施設設備の整備」の評価は、生徒・保護者ともにいずれも高かった。「能力を伸ばす教育の実践」の評価は、目標水準に少し届かなかった。保護者のアンケート回答率は保護者会で周知し、Classi と紙を併用することで比較的高かった。生徒は自由意見を多く集めることができ、回答率も上がった。 働き方改革の取組に関する二つの評価は、十分とはいえない。 経営企画室は 1 名欠員の状況であり、職員一人の負担はかなり大きい。 【数値実績】 ア 学校運営連絡協議会の協議委員の「学校が良くなった(そう思う・多少そう思う)」という評価 88.9%《異動のため無回答 11.1%》〔88.9%《無回答 11.1%》〕 イ 学校評価の肯定的評価の割合 「入学満足度」 生徒 89.6%〔85.3%〕、保護者 93.4%〔88.9%〕、教員 100%〔97.6%〕 「学校生活の充実度」 生徒 88.9%〔87.8%〕、保護者 87.8%〔84.1%〕、教員 100%〔100%〕 「目標意識をもった高校生活(生徒は自己評価)」 生徒 84.8%〔83.2%〕、保護者 78.0%〔74.2%〕、教員 97.5%〔97.5%〕 「能力を伸ばす教育の実践」 生徒 78.4%〔73.0%〕、保護者 62.7%《16.8%》〔56.2%《18.5%》〕、教員 97.5%〔85.4%〕 「施設設備の整備」 生徒 91.5%〔90.1%〕、保護者 89.1%〔87.0%〕、来校者 89.8%〔91.2%〕、教員 50.0%〔53.7%〕 「国や都の取組成果」 保護者 28.6%《28.6%》〔50.0%《15.0%》〕、教員 15.0%〔31.7%〕 「在校時間縮減の取組」 保護者 64.3%《14.3%》〔60.0%《30.0%》〕、教員 43.6%〔51.3%〕 「教育活動の中で評価できる項目(複数回答)」 (1)学校行事 52.0%〔(3)39.0%〕、(2)部活動 46.7%〔(1)45.0%〕、(3)授業 41.4%〔(2)39.7%〕の順 【評語の説明】 A 設定した目標を高度に達成 C 設定した目標を達成するには、もう一歩	ユーアル実施校として、Web ページを刷新し、分かりやすい形で、学校の魅力や特徴を積極的に発信する。 (2) 中学校の学校行事を考慮して、広報活動の実施時期を検討する。また、計画的に情報を発信していく。 (3) 新しい生活様式に基づき、感染症対策を講じた上で授業公開を実施する。
	【課題】 (1) 学校経営計画の教育活動の目標を多面的に評価し、改善に活かしていく。 (2) 学校評価アンケートの回答率を高める。 (3) 働き方改革の校内の取組として、教職員の在校時間を縮減する。 【対応策】 (1) 学校評価や授業アンケートなどを活用し、的確に課題を把握するとともに、学校経営の一層の改善を推進する。 (2) アンケートの実施方法や実施時期などを工夫し、保護者の回収率を高めていく。 (3) 企画調整会議・学年会・教科主任会・教科会等の会議を時間割内に設定し、各種会議の時間短縮を図り、教職員の在校時間を縮減する。また、看護休暇・短期介護休暇や育児休暇の取得等の利用の推奨や業務の見直しなど、働き方改革を推進する。	

- B** 設定した目標を概ね達成
D 設定した目標はほとんど未達成
- A** 設定した目標を高度に達成
C 設定した目標を達成するには、もう一歩